



農協だより

Vol.40

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成21年12月



米の集荷状況



今年の稲作は水不足や大雨ならびに日照不足等があり、いろいろとご苦労があったと思います。収量は(作況指数県南部100) 平年作でした。しかし、天候不順の影響か充実度不足の米が多く、残念ながら地域間に大きな差があり、1等米比率は低い水準となりました。

平成21年11月18日現在 袋/30kg

名柄	1等	2等	3等	規格外	合計
コシヒカリ	697	517	29		1,243
ヒノヒカリ	1,755	1,595	94	7	3,451
こだわり米ヒノヒカリ	1,368	177			1,545
あきろまん	249	108			357
その他	30	3	2		35
ココノエモチ			2		2
合計	4,099	2,400	127	7	6,633

昨年度より取り組んでおります栽培履歴回収にご協力頂きまして、大変ありがとうございました。もう1回集荷がありますが、現在のところでは100%の回収率となっております。回収させて頂きました履歴を分析検討し、今後の営農指導に役立たせたいと思っております。来年度も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

「熊野町黒大豆」NHKテレビ出演!



JAグループ広島とNHK広島放送局で「地産地消」をテーマにNHK地域放送番組の「ひろもり産直市」を作成しており、JA安芸管内で生産されている丹波黒種黒えだまめが取り上げられ、10月16日熊野町黒大豆生産農家の中村さんがNHKテレビに出演され熊野町生産の丹波黒種黒えだまめの宣伝に一役かいました。

ひろしまフードフェスティバル

平成21年10月24~25日に中央公園芝生広場で開催されました。JA安芸からは、広島市農業振興協議会花き部会に所属している瀬野川地区の花生産農家がふうせんとうわた、ハイビスカスレット、千日紅などを出品されJA安芸職員も販売、宣伝の応援に行きました。花は人気がありすぐに完売しました。

講習会を開きました!

阿戸農事研究会 10月16日(金)
瀬野川女性部 11月2日(月)
育苗センター農業講座 11月17日(火)
ススキグループ 11月18日(水)



土壌診断の結果報告について

今回の土壌診断をうけられた件数は24圃場でした。

リン酸は、適正値が50%、過剰土壌が45.8%でリン酸が蓄積されている圃場が多いことがわかりました。

腐植は、適正値が66.6%、不足土壌が33%でした。堆肥等を土づくりの為、毎年施用して下さい。

ケイ酸は、適正値が62.5%、不足土壌が37.5%ありました。毎年継続して入れることによって病気予防や増収につながります。

鉄は、適正値以上が4%で、不足土壌が96%でした。秋落ち田では鉄不足で根に障害を受けている可能性があります。

それぞれの役割

リン酸は、根の活着や分けつ、成熟を促進します。

ケイ酸は、稲を強くし病害虫から守ります。

鉄は有害なガスから根を守ります。

有機物(腐植)は地力を高めます。

今回の土壌診断の結果、リン酸・加里の数値が高かった方は、元肥をリン酸・加里の成分の低い肥料を指導し、2割程度の経費削減になりました。



農業祭開催!



阿戸農業祭、瀬野川農業祭、かいた農業祭が11月15日(日)に賑やかに開催されました。農産物品評会の出品数は、昨年を上回ることもあり、阿戸品評会が203点、瀬野川品評会が282点、かいた品評会が164点でした。今年は、害虫の発生が多かったので大変だったと言っておられました。生産者も多数参加され、近隣の消費者の方も農産物の即売会では会場いっぱいになり、作る側と買う側のよい交流ができたのではないかと思います。



12月営農メモ

果樹

今月は、土づくりとしてカキガラ資材を(商品名:サンライム・マリンカル) 1aあたり20kgの施用を行ないます。果樹園も土は酸性化していくので年に1回は石灰資材を施用して下さい。カキガラ資材は、天然のもので徐々にアルカリ分があらわれ微量要素も含まれています。

剪定は、落葉果樹では12月に行います。いちじくで12月に剪定して寒害を受けた地区は2~3月に行います。梅などは年を越すと蕾がふくらみ作業がやりにくくなります。

防除は、今年葉や果実の表面に黒いすすのようなカビが発生した樹はカイガラムシ、アブラムシ等の分泌液によって発生したと考えられます。これらの、越冬害虫の密度を下げるのにマシン油乳剤の散布が大変効果があります。

マシン油乳剤は、枝幹上で越冬するカイガラムシ類、ハダニ類、サビダニ類等を油で被覆することによって窒息死させます。作用特性が薬剤抵抗性がつきにくい利点があります。最近、ぶどうでもホコリダニ、ハダニ類が果梗の変色等を引き起こすことが問題になっています。

散布上の注意

- ① 害虫の樹上での越冬場所は粗皮下にはハダニ類、サビダニ、カイガラムシ類、枝幹にはアブラムシ類、ハダニ類、カイガラムシ類、芽にはアブラムシ類、サビダニ類、葉にはハダニ類、カイガラムシ類が生息しておりますのでそれぞれ丁寧に各部位に散布してください。なお、粗皮下で越冬する害虫には粗皮削り後に散布すると効果が高まります。害虫の体にべったりマシン油乳剤を着けるようにします。
- ② 雨によって流れやすいので天気予報を確認して天気が安定している時に散布します。
- ③ 薬液は、散布直前に作り、むらなく散布します。
- ④ ももでは2月中旬以降、なしでは3月上旬以降の散布は葉害(発芽不良)がでる恐れがあるのでさけます。
- ⑤ ぶどうは発芽不良となるので散布しません。

その他

- ① 落葉や雑草を処分して園内の清掃を徹底します。落葉には病原菌が付着していたり、雑草や落葉は害虫の越冬場所となります。
- ② ぶどう、なし、かきではコナカイガラムシ類の成・幼虫や卵が越冬しているので粗皮を削って虫を除去します。
みかんやかきのロウムシ類・もものウメシロカイガラムシは枝幹に寄生しているのでタワシなどでこすり落とします。

水稲

田んぼの土づくりについて

水稲の土作りは、有機物補給のための堆肥や『ミネラルA』『ケイカル』『ケイテツエース』などのケイ酸質肥料・含鉄肥料『ようりん』『苦土重焼りん』といったリン酸質肥料などがあります。

堆肥は土になじむ期間が必要ですので、秋に施すのが望ましいのですが、それ以外『ミネラルA』や『ようりん』などは、出来秋から春先までの間、いつ散布してもあまり問題がありません。

しかし、春先の作業で忙しい時期や、稲わらなどを早く腐らせる効果などを考えると、出来るだけ土作り肥料は出来秋に散布する方が良いといえます。

土作り肥料の成分と含量

(単位%)

	アルカリ	ケイ酸	鉄	マンガン	苦土	施 肥 量 (目安)
ケイテツエース	40	12~15	25~30	2~3	2	3年に1回 300~400 kg
ミネラルA	40	18~20	15~20	2~3	3	または、毎年 100~130 kg
ケイカル	40	28	—	—	3	3年に1回 200~300 kg、 または、毎年 70~100 kg

ケイ酸 /組織を硬くし、葉が直立して受光体勢が改善され光合成が高まり、耐倒伏性が増大する。病害虫に対する抵抗性も高くなり、いもち病の害が軽くなる。

鉄 /酸化鉄となって根を守る。ゴマ葉枯れ病対策。

マンガン /少量だけ必要。(ゴマ葉枯れ病対策)

苦土 /食味向上。

マシン油乳剤(95%)の使用法

樹種	対象害虫	希釈倍数	散布適期	備考
もも	サビダニ ハダニ類 アブラムシ カイガラムシ	20倍	12月中旬 または 2月上旬	ウメシロカイガラムシが発生していない場合は30倍でよい。2月中旬以降の散布は葉害の恐れがあるのでさける。アブラムシ類を対象とするときはモモアカアブラムシなどの休眠卵で樹上越冬するアブラムシ類を対象に発芽前散布
なし	サビダニ ハダニ類 カイガラムシ	20倍	11月下旬から12月上旬または2月中~下旬	3月上旬以降の散布は葉害の恐れがあるのでさける
かき	カイガラムシ類	20倍	12月上~中旬	
みかん	カイガラムシ類 サビダニ ハダニ類	30倍	12月中旬~1月中旬	葉害をさけるため、葉にたまった薬液は落とす。樹勢が低下しているときまたはカイガラムシが少ない場合は45倍液を散布する
くり	カイガラムシ類	14倍	12月上~中旬	